

はじめに

札幌市では、平成12年に第4次札幌市長期総合計画を策定し、その最初の実施計画である第1次5年計画のもとで札幌のまちづくりを進めてきました。しかしながら、長引く景気低迷を背景として、国、地方を通じて極めて深刻な財政状況が続く中で、本格的な地方分権の到来と市民自治の推進など、本市を取り巻く状況は大きく変化しています。



このような時代の転換期を迎え、平成15年7月に発表した施政方針「さっぽろ元気ビジョン」の実現に向けて、市民自治、まちづくり、市役所改革の3つのプランからなるさっぽろ元気プランの策定を進めてきました。「札幌新まちづくり計画」は、このまちづくりのプランとしてこれまでの5年計画に替えて策定するもので、平成16年度から18年度までの3カ年を計画期間としています。

計画の策定に当たっては、市役所内部に全庁的なプロジェクトを設置して組織横断的な検討、調整を行うとともに、さまざまな手法による市民意向の把握に加え、市民会議の設置やパブリックコメントの実施など計画策定過程への市民参画を積極的に取り入れました。

本計画は、さっぽろ元気ビジョンで示したまちづくりの基本的方向を体系化・具現化し、市民・企業・行政などの都市の構成員すべてが共有する理念や指針を描いたうえで、札幌市が3年間で重点的に進める施策や事業を盛り込んでいます。

この計画が、新しい時代のまちづくりの第一歩として札幌市民に広く認識され、さまざまな場面での市民議論や市民活動を通じて、市民の力みなぎる文化と誇りあふれる街が実現していくことを私は期待しています。

最後に、計画の策定に当たり、精力的なご議論をいただいた市民会議委員をはじめ、さまざまな意見を寄せていただいた市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成16年9月

札幌市長 上田文雄

目次

第1部 計画の基本的考え方

1	計画策定の趣旨	2
2	計画の特徴	3
3	計画策定について	3
4	計画の事業数と事業費	6
5	計画の推進に当たって	7

第2部 新たなまちづくりのビジョンと重点事業

1	計画の構成	10
2	「まちづくりの大切な視点」を踏まえた事業の取り組み	11
3	「施策の展開方針」に沿った事業の取り組み	25
4	施策体系別計画	29
	■ 施策の体系	30
	■ 基本目標 1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ	32
	■ 基本目標 2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ	64
	■ 基本目標 3 世界に誇れる環境の街さっぽろ	96
	■ 基本目標 4 芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ	130
	■ 基本目標 5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ	148
	■ その他の重点事業	164
5	主な施設、サービスの水準	166

資料

1	基本目標に関連する主な部門別計画等	170
2	計画策定の経過	171
3	市民意見	173
4	札幌新まちづくり計画市民会議	184
5	さっぽろまちづくりトーク	187
6	パブリックコメント手続き	189
7	重点事業編（案）からの変更	209
8	成果指標	211
9	部局別計画事業一覧	217
10	人口の動向	227

第1部

計画の基本的考え方

1 計画策定の趣旨

2 計画の特徴

3 計画策定について

4 計画の事業数と事業費

5 計画の推進に当たって

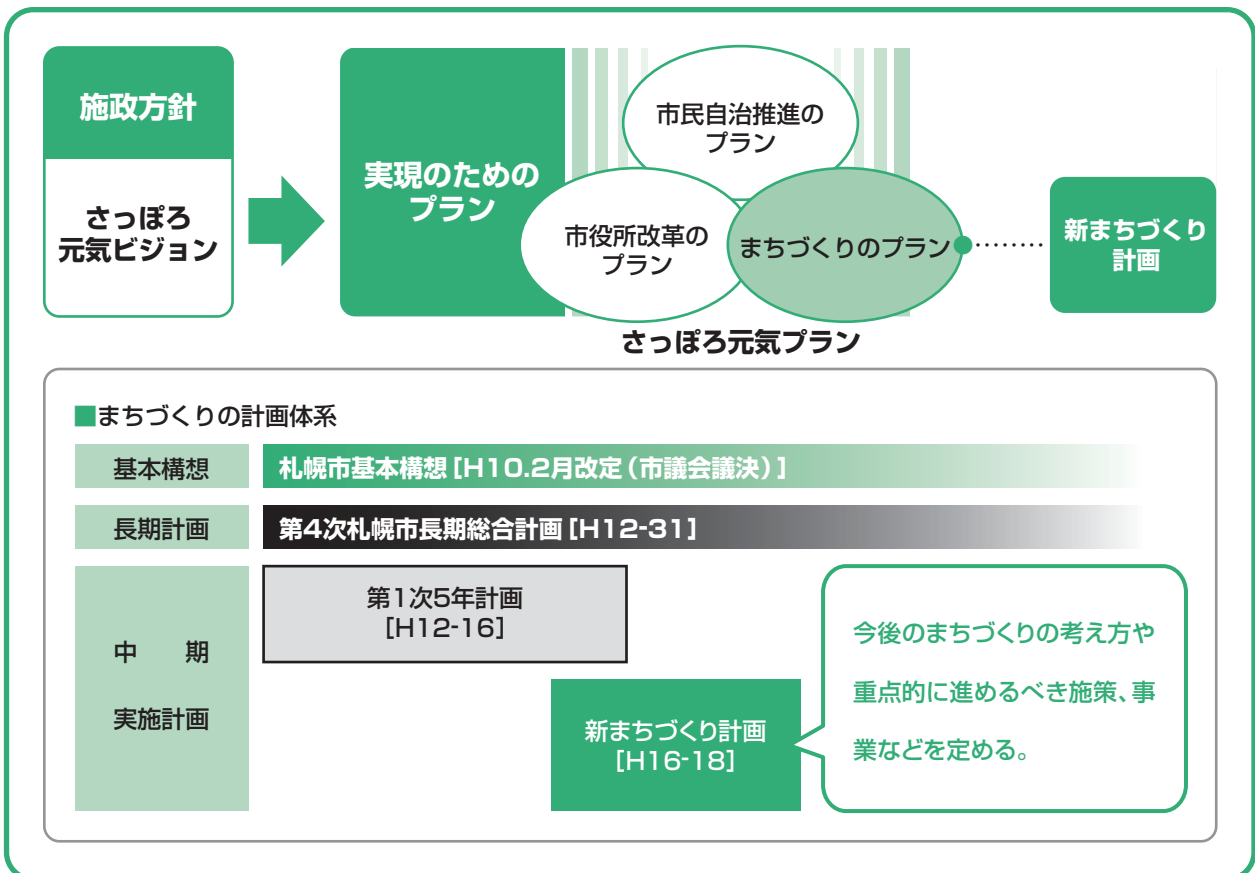
1 計画策定の趣旨

札幌市は、これまで、おおむね20年間を計画期間とする長期総合計画と中期の実施計画である5年計画に基づいて、まちづくりを進めてきました。平成10年2月には、まちづくりの指針である「札幌市基本構想」を市議会の議決により改定し、これに基づき平成12年に策定した「第4次札幌市長期総合計画」と「第1次5年計画（平成12～16年度）」のもと、効果的・効率的な事業実施に努めてきました。

一方、長引く景気低迷を背景とした本市財政状況の悪化や少子・高齢化の急速な進行、地球環境問題の深刻化、札幌を支える人材育成の必要性など行政課題の多様化に加えて、地方の自己決定・自己実現を基調とした本格的な地方分権の到来や市民自治の推進など、札幌の都市経営環境は大きく変化してきています。

このような状況の中、平成15年7月に公表した施政方針「さっぽろ元気ビジョン¹」は、「市民の力みなぎる、文化と誇りあふれる街」をまちづくりの目標として掲げ、その実現のために「市民自治推進のプラン」「まちづくりのプラン」「市役所改革のプラン」からなる「さっぽろ元気プラン」を策定することとして取り組みを進めてきました。

札幌新まちづくり計画は、さっぽろ元気プランのまちづくりのプランであると同時に、第4次札幌市長期総合計画の実施計画として、平成16年度から18年度までの3年間を計画期間として策定したものであり、この間の本市の行財政運営の基本となり、予算編成の指針となるものです。



¹ ビジョン 将来、望まれるものとして、心に描く展望。

2 計画の特徴

札幌新まちづくり計画は、施政方針の目標である「市民の力みなぎる、文化と誇りあふれる街」の実現に向けて、まちづくりを担う市民・企業・行政などの都市の構成員が共有する理念や指針を描くとともに、札幌市が重点的に進める施策や事業を盛り込んでいます。

理念や指針を描く際には、市民により分かりやすいように、望ましい街の姿やおのこの主体に期待される役割を示すほか成果指標を試行的に導入するなど、これまでの実施計画にはない新たな内容を取り入れました。

施策や事業については、財政状況が厳しさを増していることや社会資本をはじめとする基本的な行政サービスが一定水準に達していることを踏まえて、経営資源の効果的な活用を図るため、5つの基本目標と17の重点戦略課題を設定して重点化を図るなど、新しい時代への適切な対応を目指しています。

また、施政方針に掲げる「市民自治が息づくまちづくり」を推進するため、さまざまな手法を用いて計画策定過程への市民参画を充実し、市民議論や市民との合意形成を重視しました。

3 計画策定について

(1) 計画期間

札幌新まちづくり計画は、施政方針「さっぽろ元気ビジョン」を確実に実現するとともに、目まぐるしく変化する社会経済情勢に的確かつ柔軟に対応する趣旨から、計画期間をこれまでの5年計画より短くして、平成16年度から18年度までの3年間としました。

(2) 基本的な考え方

計画の策定に当たっては、以下の点に留意しました。

1 計画対象の重点化

中長期的に厳しさを増す財政状況を踏まえて、経営資源を効果的かつ効率的に活用するため、5つの基本目標と17の重点戦略課題を設定し、政策目標を明確に示して施策や事業の重点化を図りました。また、4つの「施策の展開方針」を設定して、施策の進め方や展開のあり方についても重視しました。

2 成果を重視した計画づくり

施策や事業の企画段階から、その実施により期待される成果を十分検討するとともに、事業の計画化に当たっても重視しました。また、まちづくりを担う市民・企業・行政などの共通目標を数値を用いて具体的かつ分かりやすく示すため、60項目の成果指標を試行的に導入し、その達成に資する事業を積極的に計画化しました。

3 計画策定過程への市民参画の充実

市民、有識者へのアンケートやインターネットなどによる市民意見募集に加えて、市民会議の設置、まちづくりトークやパブリックコメント手続き²の実施など、これまでにない新しい市民参画のしくみを導入しました。市民会議からの提言の柱である「これからのまちづくりの大切な視点」については、今後まちづくりを進めていくうえで力点をおくべき事柄として計画に位置づけるなど、提言や市民意見はできる限り計画に反映しました。

4 組織横断的な取り組み

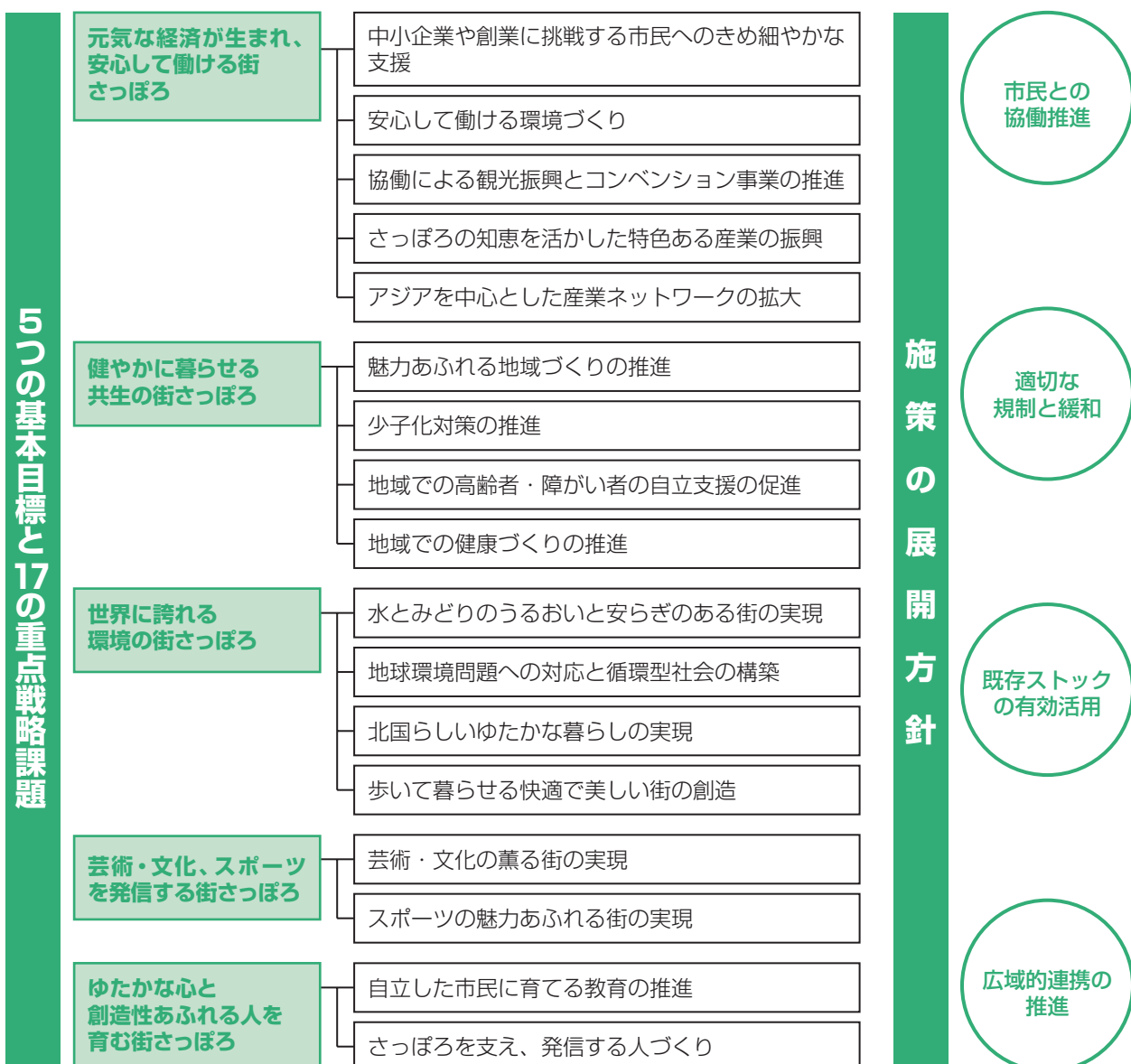
施政方針「さっぽろ元気ビジョン」を踏まえて定めた政策目標に対して組織横断的に取り組むため、市役所内部に副市長をトップとする全庁的なプロジェクト³を5つの基本目標ごとに設置しました。プロジェクトでは、ビジョン編に向けての素案の検討や計画事業の事業体系、事業構築などの検討、調整を行いました。

²パブリックコメント手続き 政策案を広く公表して意見を求め、寄せられた意見を考慮して決定するとともに、意見に対する考え方を公表するしくみ。

³全庁的(な)プロジェクト プロジェクトは、研究や開発などの計画、企画という意味。「全庁的(な)プロジェクト」とは、プロジェクト遂行のために市役所内部に組織横断的に編成されたチームを指す。

まちづくりの大切な視点

市民自治の推進	市民がまちづくりの主体として、まちに愛着を持ってその役割を積極的に担い、公共的な活動に取り組みよう市民自治を推進します。
さっぽろブランドの創出・継承	まちの自然・風土・歴史・文化に根ざした北方都市札幌ならではの魅力をまもり・創り・育て、そして、さっぽろブランドとして発信します。
持続発展が可能な都市の実現	ゆたかな自然と共生し、市民一人ひとりが環境に配慮するような生活文化が定着した持続発展が可能な都市を創出します。
安心・安全なまちづくり	市民・企業・行政など都市の構成員がそれぞれの役割を担いながら、誰もが安心・安全に暮らし、生きいきと活動できる共生のまちを実現します。
市民活力の向上	市民が行う身近な文化活動や事業活動、市民活動などを活性化することにより、まち全体の活力を高めていきます。

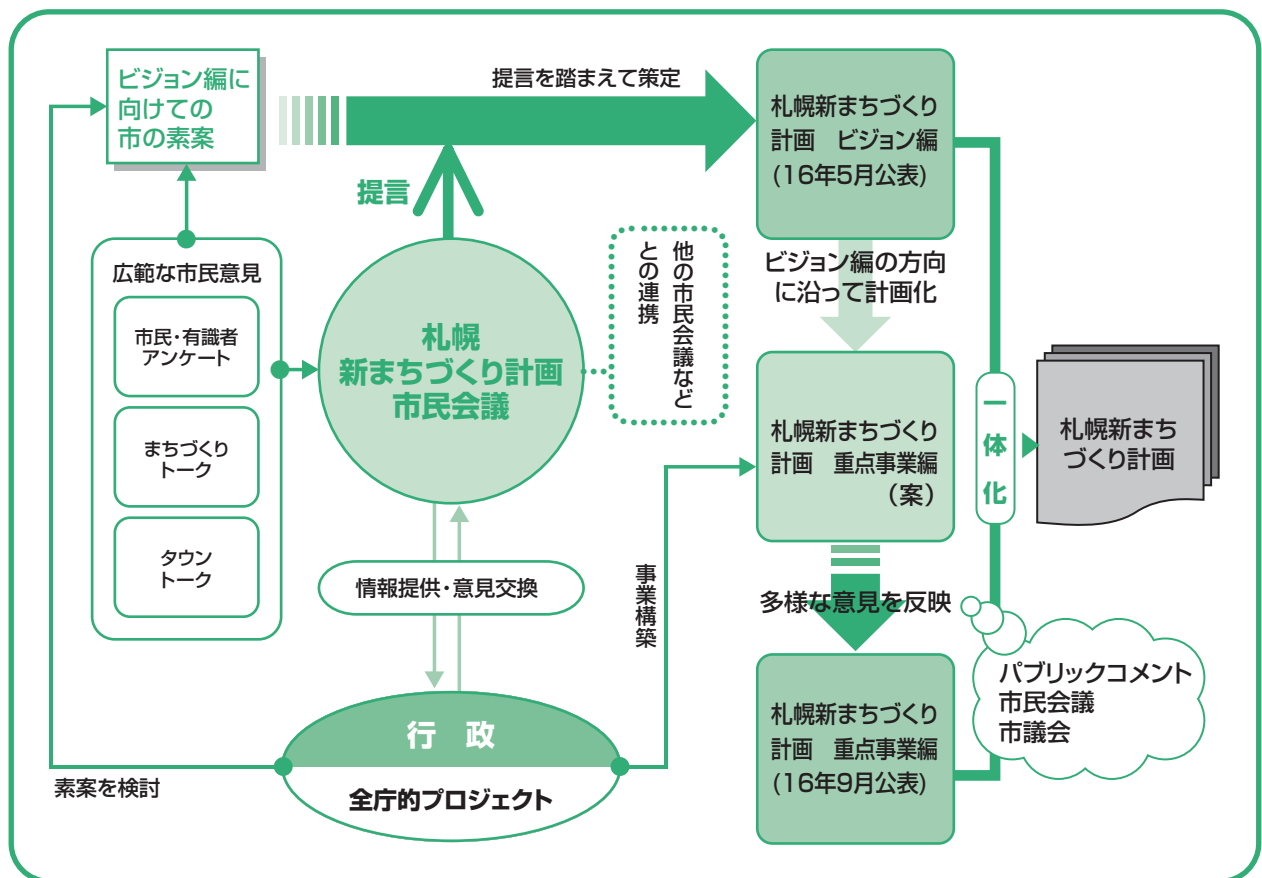


(3) 計画策定の取り組み

計画は、「ビジョン編」と「重点事業編」の2段階に分けて策定を進めてきました。「ビジョン編」は、まちづくりを担う市民・企業・行政などの都市の構成員が共有する理念や指針を描いたものであり、「重点事業編」は、ビジョン編に沿って札幌市が重点的に実施する事業を取りまとめたものです。本計画書は、これらを合冊し一体化したものです。

ビジョン編の策定に当たっては、重点的に取り組むべき施策や市民・企業・行政などの各主体に期待される役割などについて共に考え、共通の認識をつくっていくために、公募委員や有識者など24名の委員からなる「札幌新まちづくり計画市民会議」を設置しました。この市民会議では、市で検討した素案をもとに、まちづくりトークを含む広範な市民意見や他の市民会議における検討状況などを参考とし、市職員との意見交換、素案が市民ニーズに合っているかの検証や重点的に取り組むべき施策の検討などを経て、平成16年4月、計画に関する提言を行っています。この市民会議からの提言を踏まえて、同年5月にビジョン編を公表しました。

重点事業編の策定に当たっては、全庁的なプロジェクトによる事業体系や事業の検討を行うとともに、地域の特性を活かしたまちづくりを進める趣旨から、各区が主体となった事業検討を行い計画案を作成しました。この計画案に対する、パブリックコメントや市民会議、市議会からの意見についてはできる限り計画に反映し、平成16年9月に重点事業編を公表しました。



4 計画の事業数と事業費

これまでの5年計画は、政策的な予算の大部分を計画対象としていましたが、札幌新まちづくり計画は、施策の基本方針などに沿って3年間に重点的に進めるべき事業を厳選して盛り込むなど、対象事業を抜本的に見直してスリムな計画としています。

● 基本目標別の計画事業数

	合 計	基 本 目 標					その他の重点事業
		元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ	健やかに暮らせる共生の街さっぽろ	世界に誇れる環境の街さっぽろ	芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ	ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ	
事業数	267	63	80	84	35	40	14

注：計画事業のうち、複数の施策に該当するものは重複して掲載しているため、基本目標とその他の重点事業を合計した数値は合計と一致しない。

● 計画事業費および基本目標別の事業費集計

(単位:百万円)

	合 計 (構成比)	基 本 目 標					その他の重点事業	
		元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ	健やかに暮らせる共生の街さっぽろ	世界に誇れる環境の街さっぽろ	芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ	ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ		
事業費	351,400 (100.0%)	242,907	32,699	60,987	10,522	13,551	15,158	
財 源 内 訳	国・道 支出金	30,155 (8.6%)	1,310	10,133	18,473	58	1,999	4,019
	市 債	34,720 (9.9%)	1,926	9,275	20,888	2,196	4,910	4,199
	そ の 他 特定財源	236,177 (67.2%)	234,635	521	800	245	71	0
	一般財源	50,348 (14.3%)	5,036	12,770	20,826	8,023	6,572	6,940

注1：計画事業のうち、複数の施策に該当するものは重複して計上しているため、基本目標とその他の重点事業を合計した数値は合計と一致しない。

注2：各欄の数値は十万円単位で四捨五入しているため、事業費欄の数値と財源内訳の合計数値とが端数において一致しない場合がある。

5 計画の推進に当たって

計画の推進に当たっては、施策の基本方針などに沿って関係部局が連携して横断的に取り組むとともに、『市役所改革プラン』や「事務事業の総点検」の取り組み結果を盛り込んだ『財政構造改革プラン』などを踏まえて、最大限の効率化を図りながら着実に実現していきます。

また、計画事業の実施による成果の検証に当たっては、今回試行的に導入した60項目の成果指標の活用などを中心とした自己評価を行うとともに、今後、外部評価の導入を柱とした新しい行政評価制度についても活用していくなど、適正かつ効果的に進めていきます。

